

展示会レポート

2011年6月14日～16日の3日間、台湾最大の展示会場、TWTCC Nangang Exhibition Hall(台北市)で開催された、Display Taiwan 2011のレポート。連載最終回は、EPD Paper(EPD)のトップサプライヤー、E-INKをご紹介する。(澤登美英子記者)

【元太科技 E-INK 特許技術のマイクロカパ台湾のPVI(Prime View International)】セル型電気泳動方式で電子ペーパーディスプレイ(EPD)を生産している。元太科技は、米イー・インク社を09年9月に買収した。イー・インクは10年10月に、フルカラーマサチューセッツ州ケンブリッジに拠点を置き、EPD「Triton」を開発したと発表し



指揮者向けの譜面台。何曲もの楽譜を入れられる

フルカラーEPD端末、中国で発売

300ppi 実現、教育市場に照準

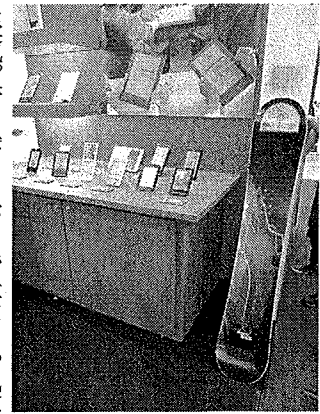
た。EPDは薄く、軽いことから持ち運びに便利で、太陽光の下でも画像や文字が美麗に見える。消費電力なことが特徴。電子ブックとしての製品化が待たれていたが、11年7月から、中国の大手

Display Taiwan 2011

第5回

電機メーカー漢王科技が販売している。漢王は、電子ブックで中国ナンバー1のシェアを持つ。

Tritonは、サイズは9.7インチで、グレースケール16階調、4096色、300ppi



各社の電子ブックと時間・方角が分かるスノーボード板

を実現。書き込むことができ、反応速度は85～100mm/sec。構造は従来のモノカラーEPDと変わらず、FTガラスの上にマイクロカパセルを塗布した前面板を搭載したパネルに、RGBWのカラーフィルターを加えてフルカラー化を実現した。ターゲット用途は、学生の教科書やノート用。本(教科書)を何冊もインストールして持ち歩くことができる。同社は、台湾(新竹)と韓国(仁川、08年に買収したハイディスプレイの拠点)の2拠点でFTガラスを製造し、モジュールのみを中国(揚州)工場

で手がける。現在量産しているのは、6インチ、7.1インチ、9.7インチ。ガラスラインを拡大すれば、技術的には40インチまで対応可能だ。このほか、Eペーパーの応用製品を数多く展示。世界各社の電子ブック端末や、USBメモリに残量ゲージを搭載した製品(ゲーミング部分にEPD)、広告POPや床に埋め込むタイプなど(ハイヒールで踏んでも壊れない)を披露。EPDの特性を生かし、さまざまなアプリケーションへの搭載拡大の様子が見て取れた。

(この稿終わり)